



前回の答申内容及び対応方針について

諮問事項

大規模地震発生時における特別区消防団の消火能力を向上させる方策はいかにあるべきか

(審議期間：令和3年10月から令和5年3月まで)

諮問の趣旨

特別区消防団は、それぞれの地域での密着性を生かしながら、災害発生時においては消火を中心とした活動を積極的に行うとともに、平時においても、火災予防の啓発や住民への各種訓練指導等の役割を担うなど、地域住民から頼られる存在である。

今後、発生が危惧されている「首都直下地震」や「南海トラフ地震」等の震災時においては、その特性を生かした迅速な出場による初期消火をはじめ、木造・防火造建物の密集地域での消火活動、また、消防隊との連携による延焼阻止活動、さらには長時間に及ぶ消火活動など、その役割は普段の活動以上に多岐にわたることが考えられ、東京消防庁と連携を考慮した組織的な対応が必要となる。

このことから、消防団の実戦的な対応力の更なる向上が、震災時における「より効果的な活動」につながると考えられることから、特別区消防団の消火能力の向上方策について諮問がなされました。



前回の主な答申内容及び対応方針について

I 本業等を持ち、時間等の制約がある消防団員が効率的・効果的に活動能力を向上させる方策

項目	主な答申	対応方針
実 戦 的 活 動 上 関 係	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>特別区消防団震災時活動マニュアル等を活用した実戦的な訓練</u>及び署隊と連携した訓練の推進 ○実際の街区等を使用した震災想定の実戦的な訓練の推進 ○消防団が主体となった総合的な訓練の推進 	<ul style="list-style-type: none"> □<u>新たな訓練モデルの揭示・検証による実戦的活動力の向上</u> □積載車による出場から放水まで等の一連の火災対応訓練の推進 □<u>消防団訓練指導マニュアル等の整備による主体的な活動の定着化</u>
研 修 等 の 充 実 関 係	<ul style="list-style-type: none"> ○消火班等に特化した研修や教育など教育訓練の充実 ○職員が団員と同一研修に参加するなどの統一的な教育の推進 ○<u>消防学校が行う研修や資格取得講習の受講人員の増強</u> 	<ul style="list-style-type: none"> □可搬ポンプ実技講習の試行・検証 □消防学校研修や各種講習のアンケートや時勢を踏まえた随時見直し □消防団の消防学校研修への職員の聴講の検討
訓 練 環 境 の 充 実 関 係	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>消防署訓練施設や方面訓練場などの更なる活用</u> ○区など関係機関等と連携した<u>新たな訓練場所の確保や総合的な訓練を実施できる大規模な訓練場の整備</u> 	<ul style="list-style-type: none"> □<u>消防署訓練施設や方面訓練場を有効に活用した訓練の推進</u> □区など関係機関と連携した<u>訓練場所の確保推進</u>

※太字は大田区消防団運営委員会での答申が反映されているもの



前回の主な答申内容及び対応方針について

II デジタル環境を有効活用した知識・判断力等の向上方策

項目	主な答申	対応方針
<p>現行のデジタル環境の活用関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>オンライン教養や遠隔による訓練指導の推進</u> ○ 訓練録画映像による振返り訓練の推進 	<ul style="list-style-type: none"> □ <u>東京消防団 e-ラーニングシステムの更新による利便性の向上</u> □ タブレット端末を有効に活用した教養や訓練の推進
<p>新たなデジタル環境の整備関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害対応や指揮の判断等ができるアプリの開発や導入 ○ 二次元コード活用による各種資機材の取扱説明動画の導入 ○ <u>AR⁽¹⁾やVR⁽²⁾など最新のデジタル技術を活用した訓練環境の導入</u> 	<ul style="list-style-type: none"> □ 各種資機材取扱い動画等にアクセスできる二次元コード読取り方式の導入検討 □ <u>ARやVRなどの技術を活用した訓練導入に向けた調査研究（ARやVRなどの調査研究委託）</u>

※太字は大田区消防団運営委員会での答申が反映されているもの

(1) VRとは仮想現実。コンピュータによって作り出された世界である人工環境を現実として知覚させる技術を指す言葉。
(2) ARとは拡張現実。現実の背景の中にCGでつくられた3D映像やキャラクターなどのデジタルコンテンツやデータを重ねて表示することで、本来その空間には存在しない情報を表示する技術を指す言葉。



前回の主な答申内容及び対応方針について

Ⅲ 消火活動能力を低下させないための入団促進及び充足率の維持向上方策

項目	主な答申	対応方針
若い世代の 団員確保 関係	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>若年層へSNSでの情報発信、インターネット広告の充実</u> ○学生や企業の若年層を対象とした募集や体験入団の推進 ○<u>現役団員との座談会の実施</u> 	<ul style="list-style-type: none"> □<u>HP、SNS等を活用した消防団活動に興味を抱く情報発信の推進</u> □<u>あらゆる機会での消防団活動の見学や資機材等の展示の推進</u> □<u>現役消防団員との座談会の実施方法の検討</u>
募集広報の 充実・ 強化関係	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>SNSの活用やインターネット広告による募集の強化</u> ○対象別（学生、女性など）リーフレットを活用した募集広報 ○団員のインタビュー動画の充実 	<ul style="list-style-type: none"> □<u>インターネット広告による募集広報の拡充</u> □「東京消防団エントリーシート」を活用した入団促進 □団員インタビュー動画等を活用した地域紹介や消防団の魅力が伝わる広報の推進
各種制度の 利活用関係	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>消防団協力事業所及び制度の周知</u> ○<u>学生消防団認証制度のメリットの周知・付加価値の検討</u> ○<u>大規模災害団員制度等による消防団を継続できる環境の推進</u> 	<ul style="list-style-type: none"> □<u>消防団協力事業所による社会貢献や消防団PRの強化</u> □<u>学生消防団認証制度の周知による募集広報の強化</u> □<u>大規模災害団員制度等の更なる周知と活用による退団への対策の強化</u>

※太字は大田区消防団運営委員会での答申が反映されているもの



前回の主な答申内容及び対応方針について

IV 効果的かつ負担軽減した装備資機材の検討

項目	主な答申	対応方針
新たな資機材関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ホース延長など、より迅速かつ負担軽減可能な資機材整備（ホースバック⁽¹⁾、電動のホース延長台車等） ○震災時等に備えた大量放水できる消火資機材の整備（台座付き放水銃、大量放水可能な軽量ガンタイプノズル⁽²⁾等） 	<ul style="list-style-type: none"> □震災時等、迅速にホース延長できるホースバックの整備 □資機材の電動化や新しい技術を取り入れた資機材の導入検討 □消火能力や安全管理向上のための資機材の導入検討
軽量化など負担軽減関係	<ul style="list-style-type: none"> ○油圧救助資機材や手引き可搬ポンプ搬送台車など、各既存資機材の軽量化やコンパクト化、電動化の検討 ○既存資機材の整理統合の検討 	<ul style="list-style-type: none"> □更新に合わせた既存資機材の軽量化やコンパクト化など市場の開発動向の注視と検討



(1)ホースバック



(2)ガンタイプノズル